
学ぶ理由

R A N

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

学ぶ理由

【Nコード】

N7574U

【作者名】

RAN

【あらすじ】

DQ3小説1stパーティー。

志高い女魔法使いと、彼女を見守る男賢者の二人。

「熱心ですね」

ランプをつけた薄暗い部屋で、窓際の机に向かって熱心に書き物をしているラスクに、部屋に戻ってきたシエルが声をかけた。ラスクはその声に、一旦手を止めて、振り返った。

「シエルさん、ずいぶんと遅くなりましたね」

彼女の言葉には抑揚がなかった。

シエルは苦笑をして、手近にあった椅子に座る。

「また手厳しいですね」

「別に、そのようなつもりはなかったのですが」

本当にそうだったのか、彼女は少し戸惑った表情になった。

シエルは思わず笑ってしまった。

「いえ、私も遅くなってしまつてすみません」

「また酒場ですか？」

「ええ。情報収集にはうつつつけの場所です。色々な人がいますから。あなたも来ればおもしろいのに」

「……………私は……………そういうのは苦手です」

ラスクは、ふいと賢者から視線をそらし、机に向き直った。

そして、また書きものを始めた。

「いけませんね。知識というものは、何も本が全てではありません。今を生きる人々から得る者もあります。それは、その人の話を聞かないとわからない。人々と接することで、人は成長していけるものです。苦手だからとやらないでは、何もなすことはできません」

シエルは優しい笑顔で、ラスクの背中を見つめながら、諭すよ

うに言う。

「……………」

ラクスは何も言わなかったが、ペンを握る手は止まっていた。

シエルはそれを確認して、変わらず笑顔でラクスを見続けていた。

「あなたは、何のために学んでるんですか」

「……………」

ラクスは、じつと本を見つめたままだ。

シエルも、ラクスを見続けていた。

「貴方のように、賢者になるには、そうしなければいけないのですか」

「ええ。見えないものを見るようになるには」

また沈黙。

シエルは、彼女の声が出るのを待った。

「……………明日……………酒場にご一緒してよろしいですか」

どのくらいの時間だったか、しばらくの静寂の後、ラクスは口を開いた。

「ええ、もちろんですよ。一緒に行きましょう」

シエルは、嬉しそうに一層笑みを濃くした。

部屋の明かりは、まだ消えない。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7574u/>

学ぶ理由

2011年7月11日13時42分発行